

令和 6 年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	5	学校名	加納高等学校
------	---	-----	--------

学校教育目標 (教育方針)	自主自律した個性豊かな生徒を育てる 1 大志を実現するため、学問を尊ぶ気風を広め、高い学力を養う。 2 濃やかな感性と国際的な感覚を養うため、文化を尊重する校風を醸成する。 3 品性ある豊かな人間性を身に付けるため、高い道徳観及び倫理観を培う。	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【G P】	・ 大志を抱き、高い知性を兼ね備え、自らの理想（ゆめ）に向かって挑戦できる生徒 ・ 個性を認め、他者を尊重して協働することができる心豊かな生徒 ・ 持続可能な社会の創り手として、主体的に課題解決に取り組み、社会に貢献できる生徒（普通科） ・ 音楽や美術の専門性を生かし、将来、芸術分野で活躍できる生徒（音楽科・美術科）
	生徒をどう 育てるか 【C P】	・ 生徒一人一人の個性や長所を伸ばすための教育課程の編成と個に応じた指導の徹底 ・ I C Tの活用や授業改善による学びの質の向上と主体的、対話的で深い学びの実現 ・ 自主性や仲間との協調性を育むため、生徒を主体とした学校行事や部活動の運営 ・ 探究的な学びによる主体的判断力、計画立案力、コミュニケーション力、課題解決力の育成（普通科） ・ 個性を尊重した少人数の専門教育による芸術的感性や創造的表現力の育成（音楽科・美術科）
	どんな生徒を 待っているか 【A P】	・ 知的好奇心が旺盛で、自分の目標を目指して勉学に励むことができる生徒 ・ 自由な校風の中で、部活動や生徒会活動などに主体的に取り組むことができる生徒 ・ 音楽を専門的に学び、将来、演奏家や指導者などを目指している生徒（音楽科） ・ 美術を専門的に学び、将来、作家やデザイナーなどを目指している生徒（美術科）
学校の抱える課題	・ 自主自律した個性豊かな生徒を育てるため、3学科を有する本校の各学科のカリキュラムを見直し、魅力ある学校づくりを目指す必要がある。 ・ 生徒が自分の将来像を考え、その実現のために主体的に学習に取り組む力を身につける必要がある。 ・ キャリア教育を推進し、学校での「学び」と自らの将来との接点を認識させ、教科等を学ぶ本質的な意義を明確にする必要がある。 ・ 学校生活にふさわしい身だしなみや時間（期限）を厳守する等、基本的な生活習慣の確立と挨拶やマナー等の社会性を高める必要がある。 ・ 多様化する生徒へ対応するため、生徒理解に努め、相談スキルを向上させる必要がある。	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学校経営	学びの機会の保証、多様な学習ニーズへの対応の視点から、魅力ある学校づくりを推進します。
	学習指導	個に応じた指導を通して、主体的な学習態度を育成するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組みます。
	進路指導	確かな学力を身に付けさせるとともに、大志を抱き主体的に進路選択できるよう3年間を通してキャリア教育の充実を図ります。
	生徒指導	基本的な生活習慣の確立とモラル・マナーの定着に努めるとともに教育相談活動の充実を図ります。

年 度 目 標					年 度 末 評 価 (自 己 評 価)				
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興基本計画 での位置付け		達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D	
学校経営	魅力ある高校を目指したカリキュラムの検討	20	施策Ⅳ-20	・教職員によるカリキュラムの検討	・学校行事や部活動、生徒会活動等を通して、生徒が充実した学校生活を送れるよう取り組んでいる【生徒アンケート93% 保護者アンケート92%】 ・生徒会活動が活発である【生徒アンケート74%】 ・本校の教育目標やスクール・ポリシーを知っている【生徒アンケート61%】 ・「ゆめ加納企画委員会」を組織し、カリキュラムの作成と検討を重ねた。 ・コロナ以前の状況に完全に戻すのではなく、各行事を精査しながら一つ一つ丁寧に実施をした。 ・週一回の生徒会執行部会において、生徒は積極的な意見交換を行った。 ・オンライン学習支援体制を整備し必要に応じ活用した。	A	○「ゆめ加納企画委員会」を中心としたカリキュラム原案を作成し、各教科のヒアリングを行い再検討する中で方向性を確認することができた。 ○白梅祭をはじめとした学校行事の運営については、来年度も引き続き検討を重ね、より充実したものを作り上げたい。 ○オンライン学習支援は、生徒個々の状況に応じ迅速に対応できた。 ○生徒会執行部を中心に、文化祭の運営や「身だしなみ規定」の見直し等、生徒が主体的に取り組む活動が実施できた。 ▲スクール・ポリシーについては、スクール・ミッションとともに職員と共通認識を図り、生徒へ周知する必要がある。	A	
	教職員の学び合い文化の醸成・協働的な職場づくりのための支援	26	施策Ⅳ-26	・生徒アンケート（満足度80%）					
	オンライン学習等を含む学習支援体制の整備	23	施策Ⅳ-23						
	自主性や協調性を育む行事や活動の実施	1	施策Ⅰ-1						
学習指導	教科横断的で探究的な学びと課題解決能力の育成を目指したの探究活動（GLI事業）の充実	4	施策Ⅰ-4	・GLI発表（アンケート）	・ゆめ企画局を中心として組織的に探究活動を実施した。 ・授業が丁寧でわかりやすい【生徒アンケート87%】 ・ICT機器を有効に活用した授業が行われている【生徒アンケート76%】 ・ICT機器の活用、教材研究等を通して、各自が研鑽を積んでいる。 ・生徒による授業評価をもとに授業改善に取り組み、生徒に還元している。 ・学習時間調査実施後、クラスや学年単位で生徒へ情報を還元し、各自の学習状況を振り返る機会とした。	B	○地域や外部と連携した探究活動を実施することができた。 ○授業内容については、概ね信頼を得ている。 ○ICT機器の活用は、授業だけでなく家庭学習でも十分に行われており、教員の業務軽減にも繋がっている。 ○公開授業や研究授業は、教科の枠を越え積極的に行われており、引き続き取り組んでいきたい。 ○音楽・美術科の校内外の諸活動をSNSを活用して効果的に発信することができた。 ▲学習時間の減少がみられる。家庭学習習慣の確立に向け、特に年度途中の指導の工夫を進めたい。		
	個の能力に応じた学習指導と主体的に学習に取り組む姿勢の育成	8	施策Ⅱ-8	・生徒アンケート（授業に対する満足度80%）					
	公開授業・研究授業参観及び授業研究会の充実	26	施策Ⅳ-26	・生徒や教職員による授業評価の分析					
	ICTを活用した授業スタイルの研究	9	施策Ⅱ-9						
進路指導	大学系統別説明会や模擬授業、進路探究学習などのキャリア教育の充実、生徒の将来像の早期明確化	13	施策Ⅱ-13	・国公立大学現役合格者数(160名)	・ハイレベル模試に挑戦する生徒の定着 ・保護者対象進路冊子の配布 ・保護者進路研修会の対面実施 ・大学系統別説明会の実施 ・大学別模擬授業の実施 ・各種体験会・講演会の案内 ・外部講師による講演会 ①講演会「夢をかなえるコツ」 ②外部模試解説講義の定着 ③名古屋大学オープン授業の実施 ・看護体験や教育実習などインターンシップの実施 ・総合的な探究の時間に進路探究学習を実施	B	○1年生大学系統別説明会、2年生大学別模擬授業、保護者進路研修会の内容・講師を充実させて実施することができた。 ○各種講演会や模擬授業に対する生徒の評価は好評であった。 ○ハイレベル模試へ挑戦する生徒の人数は昨年並み。目標値には達いが、参加者の学力の到達度は高まっている。 ○国内外の一流の講師を招き、目的意識の向上のため芸術性の高い講座を実施することができた。 ▲外部模試解説講義や難関大学説明会の参加者が少なかった。周知の方法を工夫したい。		
	高い目標に挑戦するための確かな学力の育成	8	施策Ⅱ-8	・志望上位国公立4大学現役合格者(80名)					
	解説講義や講演会の活用、上位層の拡大	8	施策Ⅱ-8	・ハイレベル模試に挑戦する生徒の定着(40%)					
	保護者進路研修会の実施、保護者の方々との進路に関する意識・情報共有	13	施策Ⅱ-13	・保護者アンケート(進路情報提供満足度80%)					
生徒指導	MSリーダーズやPTAと連携した交通安全運動	7	施策Ⅰ-7	・生徒、保護者アンケート(満足度80%)	・生活安全、交通安全、災害安全に関する指導が適切に行われている（生徒アンケート94% 保護者アンケート84%） ・職員とMSリーダーズが交通安全啓発を行った。 ・PTAの生活安全委員会と連携し、朝の登校指導で遅刻防止を呼び掛けた。 ・先生は悩みや相談ごとに親身になって対応してくれる【生徒アンケート85%】 ・教育相談室の教員、スクールカウンセラー、学校相談員と連携し、生徒の悩みや相談に対応することができている。 ・いじめや差別を許さず、厳格に対応している【生徒アンケート86%】 ・各種のアンケート、教育相談問等を活用し、小さなSOSを見逃さないよう組織体制の強化に努めている。	A	○いじめ事案と同様に教育相談を中心に組織的な対応を必要とされるケースが増えてきているが、関係職員が連携して、該当生徒の対応に当たることができた。 ○教育相談体制が充実しており、生徒が悩みを相談しやすい環境となっている。 ▲命に関わるような交通事故は起こっていないが、軽度の事故は多い。自転車マナーについて、近隣住民からの指摘もあり、ヘルメットの着用も含めて継続的な指導が必要である。		
	登校時の声掛け等、PTAと連携した遅刻防止指導	7	施策Ⅰ-7						
	スクールカウンセラー等、外部の専門家を活用した教育相談の充実	3	施策Ⅰ-3						
	職員研修会（教育相談、いじめ対応、発達障害等に関するもの）の実施と組織体制の強化	3	施策Ⅰ-3						

来年度に向けての改善方策等

- ・これからの新しいカリキュラムの検討と、充実したシラバス作成をすすめる。
- ・授業や家庭学習におけるICT機器の活用方法を研究し、家庭学習と授業とがリンクする指導を行っていく必要がある。そのための授業改善に取り組んでいく。
- ・LHRなどでライフプランについて考える機会を設け、自分の将来のために主体的に学習に取り組む姿勢を育てたい。
- ・進路行事の質の向上から、生徒の進路意識と学力の向上を目指す。
- ・高学力層の生徒のグルーピングから、ハイレベル模試への受験や外部講義の積極的な参加を促し、全体の学力向上を目指す。
- ・自転車の交通ルールやマナーを徹底し、交通事故防止に努める。
- ・いじめに繋がりがかねない「いじり」や「からかい」、不登校の問題など、一人ひとりの心情に沿ってきめ細やかな支援が必要になってきている。職員間で共通認識を持ち、組織的に対応していきたい。

学校関係者評価

実施日：令和7年2月13日

- ・「ゆめ」とは何をもって夢と呼ぶのか、生徒の「ゆめ」とはなにかを模索する機会、大学進学・受験のみにとどまらないこの先を考える機会があるとよい。そうすれば自ずと、基礎学力を高めていくうえで、なぜそれが大事かわかるようになっていく。
- ・体験会や講義の周知については、出てみて良かったと感じた生徒の声が届くようにしていくとよい。
- ・普通科・音楽科・美術科との交流によって、感受性が豊かな生徒たちは多くのものを得られるはずである。
- ・芸術方面（音楽科・美術科）については、実際のプロのコンサートや展覧会、体験などのイベントにどんどん参加して吸収してほしい。
- ・品性のある豊かな人間性が育ってこれば自ずと普段の行動に生きてくるはず。生徒指導や交通マナーに関しての指導が必要でなくなってくるとよい。
- ・以前に比べると交通マナーはよくなったが、ほとんどの生徒がヘルメットをかぶっていない。努力義務ではあるが、そういう規則をもう少し守れるようになるるとよい。